

# 質問紙

学校質問紙  
児童生徒質問紙

質問紙調査の結果から、児童生徒の意識や指導改善の取組の成果・課題を見つめ、今後の指導の重点を明確にしましょう。

## 1 質問紙調査の「当てはまる」の数字に着目しましょう。

(児童質問紙) 自分には、よいところがあると思う。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる  
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした児童の割合は82.5%ですが、「当てはまる」だけを見ると39.7%です。



「当てはまる」や「よく行った」など、最も肯定的な回答の選択肢は、そのよさを実感している児童生徒や学校が選ぶことが多いと考えられます。「当てはまる」や「よく行った」と回答した割合に着目すると、これまで見過ごしていた成果や課題に気付くことができます。



## 2 【学校質問紙】「カリキュラム・マネジメント」について振り返りましょう。

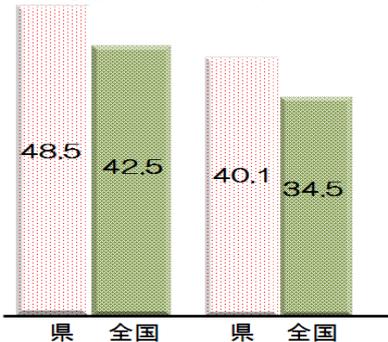
平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。

前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。

回答割合 「よく行った」と回答した学校の割合【%】

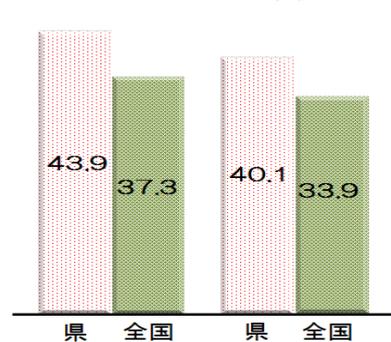
小学校(63) 中学校(79)



自校 %

回答割合 「よくしている」と回答した学校の割合【%】

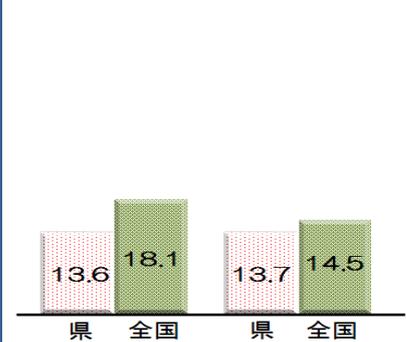
小学校(17) 中学校(17)



自校 %

回答割合 「よく行った」と回答した学校の割合【%】

小学校(38) 中学校(38)



自校 %

回答割合( )の数字は、質問紙の番号

「学校全体で教育活動を改善するために活用した」「PDCAサイクルを確立している」の質問に対して、最も肯定的な回答の選択肢を選んだ学校の割合は、小学校・中学校とも全国平均と比べ高くなっています。各学校において、「全職員による共通理解・共通行動」が大切にされていることが分かります。

質問「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」に対して、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校・中学校とも全国平均と比べて低くなっています。他教科との関連を図る指導の充実を図り、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が必要です。(※学習指導要領(平成29年告示)解説総則編「教科等横断的な視点に立った資質・能力」参照)

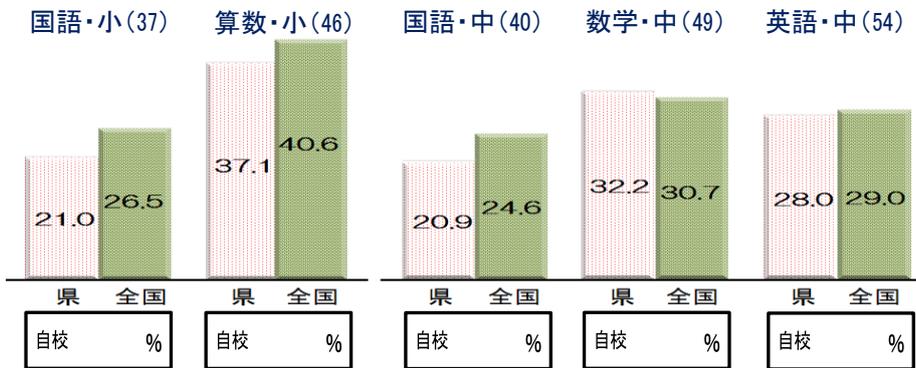
### 3 【児童生徒質問紙】勉強が「好き」「よく分かる」といえる子を増やしましょう。

【児童生徒質問紙】国語、算数・数学、英語の勉強は好きですか。

回答割合

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合【%】

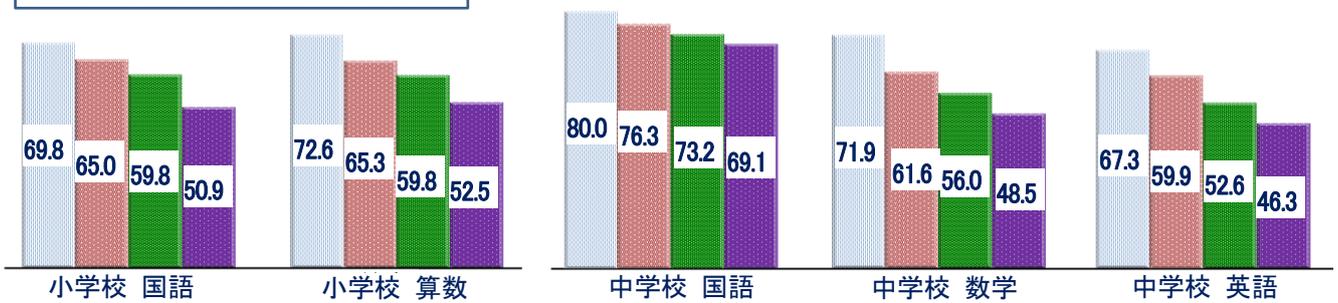
回答割合( )の数字は、質問紙の番号



「国語、算数・数学、英語の勉強が好き」と回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられます。  
国語や算数・数学、英語の学習が好きになり、学ぶことについての関心を高めていく指導改善に努めましょう。

選択肢毎の教科の平均正答率(県)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

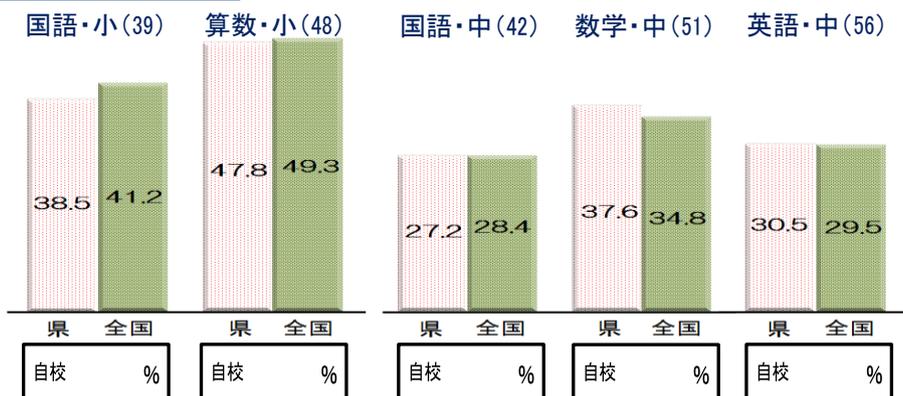


【児童生徒質問紙】国語、算数・数学、英語の授業の内容はよく分かりますか。

回答割合

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合【%】

回答割合( )の数字は、質問紙の番号



「国語、算数・数学、英語の授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の方が、教科調査の平均正答率が高い傾向にあります。  
児童生徒が「今日の授業で〇〇がよく分かった」といえる指導改善に努めましょう。

選択肢毎の教科の平均正答率(県)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

